

教育システム情報学会

Japanese Society for Information and Systems in Education

発行日 2002年 5月28日
発行所 教育システム情報学会
発行者 岡本敏雄
〒661-8520 尼崎市南塚口町7-29-1
園田学園女子大学情報教育センター内
☎06-4961-6507 FAX06-4961-6508
<http://www.jsise.org/>
E-mail:secretariat@jsise.org

ニュース・レター No.117

第27回全国大会論文発表申込み切迫る！！

発表申込切：2002年6月14日

発表原稿提出切：2002年7月12日

事前参加申込切：2002年8月 2日

発表申込みは、全国大会のホームページから、または別紙の申込み用紙で学会事務局まで、参加申込みは、同封の郵便局「払込取扱票」で。(発表申込みは、P4をご参照ください。)

第27回全国大会のご案内

ユビキタス情報社会への挑戦

～新しい教育パラダイムの構築を目指して～

本年度の全国大会は、静岡大学城北キャンパス(浜松市)にて開催されます。今回の大会では、いつでもどこでもすばやく情報のアクセスができる高度情報化ネットワーク社会の到来に向けて、新しい教育のあり方と望ましい教育システム環境を探ります。講演、パネル討論、各種発表セッションを企画しております。多くのご発表、ご参加をお待ちしております。

開催日時 2002年8月29日(木)・30日(金)

会場 静岡大学城北キャンパス
〒432-8011 静岡県浜松市城北3-5-1

主催 教育システム情報学会

後援 文部科学省(依頼中) / 経済産業省 / 静岡県教育委員会(依頼中) / 浜松市教育委員会

協賛 ALIC(先進学習基盤協議会) / 日本教育工学会 / 電子情報通信学会教育工学研究会 / 人工知能学会知的教育システム研究会 / (財)コンピュータ教育開発センター / (財)科学技術教育協会 / (社)日本教育工学振興会(依頼中)

2ページへつづく

大会日程

8月29日(木) [第1日]

9:00~	受 付							企業展示会
10:00~11:00	基調講演 「教育の情報化」最先進国への道程～教育システム情報学会の果たす役割と機能～ 電気通信大学大学院 岡本敏雄(学会長)							
11:00~12:00	特別講演 「e-Japan戦略と教育」 文部科学省(予定)							
12:00~13:00	理 事 会							
13:30~14:00	総 会							
14:00~16:00	企画セッション T1:CAI 研究部会	企画セッション T2:情報教育研 究部会	企画セッション T3:知識・言語処 理応用研究部会	A1:一般講演	A2:一般講演	A3:一般講演		
16:10~18:00	パネル討論会 「ユビキタス学習環境の展開」			B1:一般講演	B2:一般講演	B3:一般講演	ポスター セッション	
18:30~20:30	懇 親 会							

8月30日(金) [第2日]

9:00~	受 付							企業展示会
9:30~11:30	企画セッション T4:マルチメディア教材研究部 会	企画セッション T5:企業内教育 研究部会	企画セッション T6:インターネットと教育応用 研究部会	C1:一般講演	C2:一般講演	C3:一般講演		
11:30~13:00	昼 食							
13:00~14:50	パネル討論会 「同期・非同期型コミュニケーションシステムの教育利用の新しい展開」(サイバー討論会)/コーディネータ 野嶋栄一郎(早稲田大学)			D1:一般講演	D2:一般講演	D3:一般講演	ポスター セッション	
15:00~17:00	E1:一般講演	E2:一般講演	E3:一般講演	E4:一般講演	E5:一般講演	E6:一般講演	デモ セッション	

大会参加費 参加費 1,000円 (プログラム込み)
 論文集代 6,000円 (事前申し込みの場合は、5,000円)
 論文掲載費 1,000円 (論文1編につき)
 懇親会費 6,000円 (事前申し込みの場合は、5,000円)

発表・参加申し込み

発表申込〳切:2002年6月14日(金)

発表原稿〳切:2002年7月12日(金)

事前参加申込〳切:2002年8月2日(金)

* 発表・参加申込は、別紙の申込書に必要事項をご記入の上、申込書に記載の「申込書郵送先」またはFAXにてお申込みください。なお、6月頃から全国大会ホームページでも申込み受付を開始する予定です。

実行委員会事務局

〒432-8011 静岡県浜松市城北3-5-1

静岡大学情報学部小西研究室

E-mail: jsise2002@ew.cs.inf.shizuoka.ac.jp

全国大会ホームページ <http://horilab.ia.inf.shizuoka.ac.jp/JSiSE2002/>

その他の催し(予定)

8月28日(水) 公開ワークショップ

8月28日(水) 若手研究者の集い

第27回全国大会発表原稿執筆要項

以下の要領にて発表原稿のカメラレディを2部作成して、下記の原稿送付先に郵送してください。
なお、原稿締切は、2002年7月12日(必着)です。

用紙サイズ：A4(但し、B5にて縮刷)

ページ数：2ページ

ページ構成：2段組

余白：上下25mm, 左右20mm

(JSiSE論文標準書式に準ずる書式：

書式は下記のWebページ

<http://horilab.ia.inf.shizuoka.ac.jp/JSiSE2002/cfp.html>を参考にしてください)

文字サイズ：

- ・タイトル：12~18ポイント程度
- ・文章：10ポイント程度
- ・言語：日本語または英語

原稿送付先：発表者の論文提出先

〒432-8011

静岡県浜松市城北3-5-1

静岡大学情報学部 小西研究室内

教育システム情報学会第27回全国大会事務局

— 教員を公募しています —

☆ 東北学院大学 ☆

公募人員 教養学部人間科学専攻 講師、助教授、または教授1名 年齢 35歳位まで
担当科目 「教育工学(実習を含む)」「教育方法(教職科目)」など
応募締切 2002年7月15日(月)
問合せ先 東北学院大学泉キャンパス教育学実験実習室 FAX 022-375-1160
人間科学専攻主任 遠藤恵子、人間科学専攻 加藤健二
E-mail: koubo@edutech.tohoku-gakuin.ac.jp

第 25 回情報化学討論会のご案内

本学会協賛の討論会です。情報化学討論会は、化学・薬学・農学分野のコンピューターソフトウェアの開発ならびにそれらの高度利用を目指して開催されています。学習システムに関するセッションも予定されています。たくさんの方のご参加をお待ちしております。

主催 日本化学会情報化学部会
共催 日本薬学会，日本農芸化学会，日本分析化学会，日本コンピュータ化学会
協賛 教育システム情報学会

日時 平成 14 年 11 月 12 日（火）・13 日（水）
会場 ホテル日航豊橋（ホリディシアターA 及びホリディホール）[豊橋市藤沢町 141]
交通 JR 豊橋駅よりホテル・シャトルバスで 10 分

特別講演

Johann Gasteiger (エルランゲン - ニュルンベルグ大学教授)
“ Computer-Assisted Applications and Information Needs for the Practicing Chemist ”

討論主題

- (1) 化学情報学、(2)理論化学・計算化学、(3)ケモメトリックス及びそのソフトウェア、
- (4) 化学教育・学習システム、(5)その他情報化学に関するもの、(6) 分子構造情報からのデータ予測（構造活性相関シンポジウムとの共通ポスターセッション）

発表形式 口頭（講演 15 分，討論 5 分を含む）またはポスター。

発表申込 7 月 19 日（金）締切 [必着] E-mail により受付。

講演要旨 9 月 27 日（金）締切 [必着] A4 版で和文または英文 2 ページ，英文半ページ。

参加登録予約申込 10 月 11 日（金）締切 [必着]

参加登録費（構造活性相関シンポジウムと共通）

[一般] 予約 8,000 円，当日 9,000 円；[学生] 予約 3,000 円，当日 4,000 円。

要旨集前送希望の場合は郵送料 1,000 円を別途申し受けます。

懇親会（構造活性相関シンポジウムと合同）

11 月 12 日（火）ホテル日航豊橋 30F ホールにて。

会費 [一般] 予約 6,000 円，当日 8,000 円 [学生] 予約 4,000 円，当日 6,000 円

その他 会場ホテルの学会宿泊割引あり

詳細については URL: <http://www.quebec.tutkie.tut.ac.jp/cicsj/> をご覧ください。

連絡先 〒441-8580 豊橋市天伯町雲雀が丘 1-1
豊橋技術科学大学 知識情報工学系 船津 公人

Tel: 0532-44-6879, Fax: 0532-47-9315

Email: cicsj@quebec.tutkie.tut.ac.jp

URL: <http://www.quebec.tutkie.tut.ac.jp/cicsj/>

会員の皆様へ

平成14年度学会論文賞候補をご推薦ください。

2002年4月

今年度の論文賞の候補を推薦してください。これは、学会誌に発表された論文等のうちから、優秀なものを表彰する制度（学会論文賞）です。今回対象となる推薦候補論文は、【**原著論文（ショートノート含む）**】です。

なお、ご推薦いただいた論文は論文賞選定委員会において評価の査読を議論し、理事会で決定していくことになります。表彰は今年度の総会の席です。

推薦投票の要領

今回対象となる推薦論文は次のとおりです。

【原著論文】

Vol.17, No.1(2000年度春号)から Vol.18, No.3・4(2001年度秋・冬号)に掲載された2年間の論文。

この中から、推薦したいと思われる論文1編を下の「論文投票用紙」に書いて、封書またはFAXで、論文賞選定委員会あてにお寄せください。

投票方法

上述した期間に掲載された**原著論文（ショートノート含む）**の中から推薦したいと思うものを下の様式に従ってご投票ください。

- 1) 推薦論文名
- 2) 掲載論文誌の Vol., No. (および春・夏・秋・冬)
- 3) 推薦理由
- 4) 推薦者名 (会員に限る)

投票締切 平成14年6月8日(土)

送り先: 〒661-8520 兵庫県尼崎市南塚口町7-29-1

園田学園女子大学 情報教育センター内 教育システム情報学会 事務局
論文賞選定委員会 宛 または、FAX (06-4961-6508)

平成14年度「論文賞」(原著論文の部) 推薦投票用紙 【原著論文(ショートノート含む)】(Vol.17, No.1 ~ Vol.18, No.3・4)

1) 推薦論文名(及び Vol. No.): _____

(Vol. , No.)

2) 推薦理由(別紙可):

3) 推薦者名(会員に限る):

第 87 回言語・知識処理応用研究部会の報告

部会長 / 伊藤紘二

言語知識処理応用研究部会は、学習をコミュニケーションという視点から見て、あらゆる形での言語あるいは知識の取り扱いを取り入れた教育支援システムの研究を、いろいろな分野から学びながら活性化していくことを目指しています。

本年1月26日(土)に、東京理科大学(神楽坂)において、第2回、2001年度の研究会を開催いたしました。全体で9件の発表がおこなわれ、大変活発な討論の場を持つことができました。

今回の研究会では、鉄棒シミュレーション、囲碁指導システムの研究発表にはじまり、1件の問題解決支援、2件の文章理解支援、および4件の語学学習支援の発表がおこなわれました。全体的に実用レベルのシステムに関する発表が多く見受けられました。

最後に、今後の研究会の内容に関する意見交換がおこなわれ、より現場に近い実践的な発表を多くしてはどうかなどの意見が出されました。

研究会終了後の懇親会では、参加者の親睦を深めるとともに活発な情報交換がおこなわれました。

===== • ===== • ===== • =====

第87回言語・知識処理応用研究報告書購入ご希望の方は、日本学会事務センター事業部・海外部(学協会刊行物頒布業務)まで、TEL(03-5814-5811)、FAX(03-5814-5822)Eメール(sub@bcasj.or.jp)でお申し込みください。1部1,300円(送料共)です。残部切れの際はご容赦ください。

■ 教官公募 ■

図書館情報大学(筑波大学知的コミュニティ基盤研究センター)

募集人員: 助教授または講師 1名(博士の学位を有する35歳位までの方)

専門分野: 科学技術の専門知識を、社会の様々な知識レベルの人々に情報提供していくための表現手法。WBT(Web Based Training)やLOM(Learning Object Metadata)にも詳しい方が望ましい。筑波大学図書館情報学系に所属し関連する学部および大学院(博士前期課程及び博士後期課程)の授業科目も担当していただきます。

着任時期: 平成14年10月1日以降、遅くとも平成15年4月1日

提出書類: 履歴書(写真添付)、研究業績リスト、主な学术论文のコピー、研究計画、教育に対する抱負、推薦書2通または推薦者2名の氏名・連絡先

応募締切: 平成14年8月19日必着

送付先/照会先: 〒305-8550 茨城県つくば市春日1-2

図書館情報大学庶務課人事係「知の表現基盤助教授応募書類在中」と朱書きし、簡易書留で送付のこと。

書類は返却しません。図書館情報大学は平成14年10月1日に筑波大学と統合します。

第1回eラーニング技術委員会シンポジウム (企業内教育研究部会合同)が開催されました

eラーニング技術委員会
委員長 小松 秀圀

去る4月23日東京大学の本郷キャンパスにて14:00より、第1回eラーニング技術委員会のシンポジウムを会長の岡本先生の基調講演をはじめとして、高等教育のセッションと企業内教育セッションと二つのセッションで予定通り開催されました。

プログラムは以下の通りで、eラーニング技術委員会や企業内教育研究部会のメンバーを中心に、参加者93名とeラーニング技術委員会のはじめてのシンポジウムとしては大盛況となりました。

1. eラーニング技術委員会のコンセプトとeラーニング活用最新事情
NTTラーニングシステムズ 小松 秀圀
2. 「基調講演」 e-Learningにおける現状と課題
電気通信大学 大学院 教授 情報システム学研究所 岡本 敏雄
3. 高等教育セッション
東京大学 eラーニングサイト“i i i Online”
東京大学 大学院 情報学環 助教授 山内 祐平
信州大学 インターネット大学院設立までの障害と世の中の反応
信州大学 工学部 情報工学科 教授 海尻 賢二
4. 休憩&デモセッション(ストリーミングビデオの制作)
NTTラーニングシステムズ 映像事業部 山内 信治
5. 企業内教育セッション
インスタラクショナル・デザインによるコンテンツ開発の試み
J-CAST 寺田 佳子
コンピテンス・マネジメントの推進
富士ゼロックス総合教育研究所 出馬 幹也
LOMカンレンシステムの開発と可能性
産業能率大学 平田 謙次

次回は10月18日(金)に東京電機大学(御茶ノ水)にて第2回eラーニング技術委員会シンポジウムを開く予定です。

eラーニング技術委員会は約2ヶ月に1度の割合で研究会を開催しています。

eラーニング技術委員会の活動は、メンバーの皆様の情報や研究成果を寄せ合い徐々に日本でeラーニングを広めるためのベンチマーク、理論、情報、ノウハウ、マニュアルをまとめていこうとするものです。

eラーニングの導入対象は高等教育と企業内教育です。

メンバーとして活動ご希望の方は、

eラーニング技術委員会の小松 秀圀(komatu@hot.nttlls.co.jp)までご連絡下さい。

eラーニング技術委員会の開催情報をお送り致します。

新入会員の紹介

新入会員（敬称略）

JSiSE-A0201857	秋山 仁	国立塩原視力障害センター	正会員
JSiSE-A0201858	小林好彦	国立塩原視力障害センター	正会員
JSiSE-A0201859	原 潔	日本ユニシス株式会社	正会員
JSiSE-A0201860	新池一弘		準会員
JSiSE-A0201861	山田貴裕	久米工業大学	正会員
JSiSE-A0201862	尹 明	早稲田大学	正会員
JSiSE-A0201863	中尾正広	聖和大学	正会員
JSiSE-A0201864	松下幸司	大阪大学大学院	準会員
JSiSE-A0201865	布施 泉	北海道大学	正会員
JSiSE-A0201866	牧野 純	摂南大学	正会員
JSiSE-A0201867	石塚丈晴	静岡大学	正会員
JSiSE-A0201868	米川 覚	高岡短期大学	正会員
JSiSE-A0201869	松山恵美子	淑徳大学	正会員
JSiSE-A0201870	三木紘武	川崎重工業株式会社	正会員
JSiSE-A0201871	安留誠吾	南大阪大学	正会員
JSiSE-A0201872	渡辺信一	東北大学	正会員
JSiSE-A0201873	酒井三四郎	静岡大学	正会員
JSiSE-A0201874	中島 透	図書館情報大学大学院	準会員
JSiSE-A0201875	大平光彦	中央板紙(株)	正会員
JSiSE-A0201876	垣東弘一	兵庫県立伊丹北高等学校	正会員
JSiSE-A0201877	古谷次郎	北星学園大学	正会員
JSiSE-A0201878	佐々木信之	群馬工業高等専門学校	正会員
JSiSE-A0201879	玉田和恵	東京経営短期大学	正会員
JSiSE-A0201880	荒木修一	東海大学	正会員
JSiSE-A0201881	初山隆裕	神奈川県立深沢高等学校	正会員
JSiSE-A0201882	西堀ゆり	北海道大学	正会員
JSiSE-A0201883	小幡創一	オックスフォード能力開発研究所	正会員
JSiSE-A0201884	岩崎日出夫	北海道東海大学	正会員
JSiSE-A0201885	鳥越秀知	詫間電波工業高等専門学校	正会員
JSiSE-A0201886	大髭静香	園田学園女子大学	準会員
JSiSE-A0201887	重延智子	園田学園女子大学	準会員
JSiSE-A0201888	堀越直穂	園田学園女子大学	準会員
JSiSE-A0201889	森 純子	園田学園女子大学	準会員
JSiSE-A0201890	菅野 徹	人間総合科学大学	正会員
JSiSE-A0201891	村本 卓	八戸大学	正会員
JSiSE-A0201892	山本忠宏	(株)ナガセ	正会員
JSiSE-A0201893	生田目康子	(学)大阪工大摂南大学 広島国際大学	正会員

2002年度新入会員（2002年4月2日～5月20日）

国際会議の案内

国際会議は、教育システム情報学会の会員のみなさんからの紹介やインターネット上で流れている CFP 情報をもとに編集されています。会員のみなさんに紹介したい国際会議などがありましたら、下記までご連絡下さい。また、実際に国際会議に参加されたレポートなどを送っていただければ今後の国際会議の案内作成の際に大変参考になりますので、そちらのほうもお待ちしております。

本案内はWWW

(<http://www.fu.is.saga-u.ac.jp/~hayashijisise/conf.htm>) で見ることできます。

新着情報 3 件

VSMM 2002: 8th International Conference on
Virtual Systems and Multimedia

開催日程: 2002年9月25-27日

主 催: VSMM

開催地: Hilton Hotel, Gyeongju, Korea

論文応募締切: 2002年6月15日

URL: <http://www.vsmm.org/2002/>

e-mail: vsmm2002@vsmm.org

ISMAR 2002: The IEEE International Symposium on
Mixed and Augmented Reality 2002

開催日程: 2002年9月30-10月1日

主 催: IEEE CS

開催地: Darmstadt, Germany

論文応募締切: 2002年5月22日

URL: <http://www.ismar2002.org/>

e-mail: takemura@cmc.osaka-u.ac.jp

国際会議案内文責 松原 行宏 (香川大学)

E-mail: matsubar@eng.kagawa-u.ac.jp

ICTE 2002: International Conference on Information
and Communication
Technologies in Education

開催日程: 2002年11月20-23日

開催地: Badajoz, Spain

論文応募締切: 2002年5月30日

URL: <http://www.formatex.org/icte2002.html>

e-mail: icte2002en@formatex.org

再掲載情報 3 件

ACM-VRST 2002: ACM Symposium on Virtual
Reality Software
and Technology 2002

開催日程: 2002年11月11-13日

主 催: ACM

開催地: Hong Kong, China

論文応募締切: 2002年5月30日

URL: <http://www.cse.cuhk.edu.hk/~vrst2002/>

e-mail: peng@cad.zju.edu.cn

SITE 2003: Annual conference of the Society for
Information
Technology and Teacher Education

開催日程: 2003年3月24-29日

主 催: AACE

開催地: Albuquerque, New Mexico, USA

論文応募締切: 2002年10月22日

URL: <http://www.aace.org/conf/default.htm>

ED-MEDIA 2003: World Conference on Educational
Multimedia, Hypermedia
& Telecommunications

開催日程: 2003年6月23-28日

主 催: AACE

開催地: Honolulu, Hawaii, USA

論文応募締切: 未定

URL: <http://www.aace.org/conf/default.htm>

第 87 回研究報告

【言語・知識処理応用研究部会】

研究報告書購入ご希望の方は、日本学会事務センター事業部・海外部（学協会刊行物頒布業務）まで、TEL（03-5814-5811）、FAX（03-5814-5822）Eメール（sub@bcasj.or.jp）でお申し込みください。

1部 1,300円（送料共）です。残部切れの際はご容赦ください。

なお、JSiSE 会員で「研究報告」の年間購読（購読料は送料込みで年間 4,000円）をご希望の方は JSiSE 事務局 TEL（06-4961-6507）、Eメール（secretariat@jsise.org）までご連絡ください（年間 6回）。この際、ぜひ購読されますようお願いいたします（教育システム情報学会研究会委員会担当 / 伊藤紘二）。

- ・開催日：2002年1月26日
- ・場所：東京理科大学

本報告では、囲碁指導システム Go-Tutor の局面認識、構成などの概要について述べる。

1．鉄棒シミュレーションの新技開発への応用 熊野直之（法政大学）

器械体操競技の鉄棒における技をシミュレーションして解析する。鉄棒から離手した後の身体重心の軌跡は、空気抵抗、離手時の身体重心の位置と初速度によって決定される。身体重心の運動を空中に投射された質点の運動として角運動量を操作する。新しい技または応用技をシミュレーションによって可能性を探るものである。

2．囲碁指導システム Go-Tutor の開発 内山克巳、菅野慶輔、須藤真由美、 奥田富蔵、米内山等、井上靖（東海大学）

学習にはモチベーションと共に集中力、持続力、記憶力、問題を理解するための方略など、学習の基本的能力が求められる。そして、これらの能力は実践的かつ長期間にわたる鍛練によってしか伸ばすことは出来ない。こうした鍛練を長期間行う方法の一つとして碁のようなゲームが考えられる。そこで、われわれは学習の基本的能力の育成を目標として、囲碁指導システム Go-Tutor を開発中である。本システムで解決すべき重要な問題として局面認識がある。局面認識の正確さと探索空間の広さはトレードオフの関係にある。システムの棋力を向上させるには、碁の探索空間が広大である以上、局面認識の正確さを高める以外にない。

3．文章理解支援のための予備的検討 奥田富蔵、及川義道、佐藤実、大塚一徳、 井上靖（東海大学）

これまで、コンピュータによる学習支援は問題演習を通じてなすものが中心であった。そして、それは学習の一過程、すなわち、理解した知識の定着を図るという最終過程でのものである。それに対して、学習者の文章理解支援は、知識を受理するという学習の最初かつ中心をなす過程での学習支援と捉えることが出来る。本論文の目的は、知識の受理過程での学習支援の可誰性について、文章およびその内容理解の面から検討することである。具体的には、ノート作成作業を通じて、それをなすプロトタイプシステムを想定し、その機能と課題について論じる。

4．学術論文理解における視覚情報の効果 加藤由香里・岡本敏雄（電気通信大学大学院）

外国人留学生を対象とした文章理解支援システムの構築を目指して、文章理解と視覚情報との関係を明らかにするために 2 実験を行った。実験 1 では、専門分野と非専門分野の 2 種類の論文を用いて、内容の違いによって図、および文章などの情報活用がどのように異なるかを検討した。その結果、専門・非専門分野の両方において、図より文章情報カミ活用されにくい傾向が見られた。

さらに、実験 2 では、文章理解に有効な図表活用の方略を明らかにするため、図表と文章情報との関連づけについて分析を行った。その結果、文章が図表の一部を記述している場合は理解しやすいが、複数の部分と対応している場合は理解しにくいことが明らかになった。

5. 日本語作文・原稿チェックシステム構築を目指した表記チェッカーの開発 長谷川守寿(筑波大学留学生センター非常勤講師)

日本語を学習する学生の作文・原稿に対して、表記がおかしいと思われる部分を表示するチェックシステムの構築法と、そのシステムの評価について考察を行う。提案するチェックシステムは、初級・中級の学習者が書く作文・原稿の中で、特に表記の誤りに対応できることを目指したものである。大きな特徴は学習者の学習状況に合わせて、文法・語彙を制限することによって、効率的な処理を行うことを目指した点である。本論文では、本システムを用いることで、学習者が犯す様々な誤りのうち、表記や活用などのチェックを行うことが可能であることを、システム作成の手順と実行例をもとに明らかにする。

6. テンプレート・オートマトンを使った知的オンライン英作文教育支援システム 徳田尚之(㈱サン・フレア研究開発センター)

本 ICALL(知的計算機支援言語学習支援)システムでは、学習者が試作した翻訳文を人間語学教師が添削して返送するまでを自動的にシステムが行うオンライン英作文添削システムの紹介と、システムのデモをおこなう。これまでの知的学習システムに比べて、本システムが一番大きな特徴は専門知識と呼ばれるいわゆる教材・翻訳問題・模範翻訳解答と学習者からの予想される間違いを、語学教師自身が直接システムに組み込むことにより、KE(ナレッジ・エンジニア)が獲得してシステムへの組み込みを行うといういわゆるエキスパートシステムの KE ボトルネックを解決したことにある。

7. 学習エピソードの再現による第二言語における読み書き能力の帰納的獲得を支援するシステム

掛川淳一, 石川賢太郎, 伊丹 誠, 伊藤紘二
(東京理科大学)

第二言語学習において、単語や表現について、その使用法を学習する際、文脈の比較は重要である。提案システムにおいて、学習者は、読解を行うテキスト中にあらわれる単語、表現と、それらについての訳等の登録との間に双方向のリンクを張る。

これを履歴情報として利用することにより、過去に学習した表現法の事例とそのコンテキストを結び付けたエピソードを再現しやすくし、現在学習中の事例との比較を行いやすくする。

8. 問題型とプランを用いた問題解決支援システムの実装

渡辺卓摩, 高野展洋, 原 学, 吉尾明子, 伊丹 誠, 伊藤紘二(東京理科大学)

問題解決の場面において、与えられた問題に対するその前提条件(Given)と求めるべき答え(Asked)を正しく理解して、その解決において、必要であれば適切な中間 Goal1 を設定し、その中間 Goal1 までを与えられた問題に対する副問題という単位に分割して考えることは、問題解決を無方針の試行錯誤に墮すことなく、見通しを立てて行い、かつ、知識を問題解決の文脈に則して使い分けることを学ぶために重要である。本稿では、このような、問題解決における解決方略のプランニングを学習者に学ばせることが学習支援システムの最終目標であるとし、そのような学習が行えるシステムの提案とその実装について述べる。

9. 英文テキストに対する質問の複雑さの算出法とその評価

國近秀信, 宇留島稔, 平嶋 宗, 竹内 章
(九州工業大学)

語学学習支援システムにおいて、学習者の理解状態に合致した質問を提示するためには、計算機が質問の難易度を算出する機能を有する必要がある。本稿では、英文を対象とし、テキスト文を理解する・質問文を理解する・解答文を構成するという解答過程に沿った質問の複雑さの定義とその算出法を提案する。また、本手法を用いて算出した値と人間の判断とを比較し、評価をおこなう。